

## V 特用樹木の効率的増殖技術の開発

(実施期間：平成 28 年度～30 年度 予算区分：単県課題 担当：矢部浩)

### 1 目的

トチノキ・クワ・コウゾは、菓子や健康食品、和紙原料として利用されており、その多くは国外から輸入されている。近年、輸入材料から国産材料へシフトする動きが活発化しており、地域資源を活かした中山間地域の新たな収入源として期待されている。優良品種の効率的な増殖のため、作業性がよく、クローン増殖が可能な「挿し木」に着目して、栽培者自身が容易かつ効率的に増殖できる「挿し木技術」を開発する。

### 2 実施概要

#### (1) 方法

クワ、コウゾの挿し木に適した用土について検討した。クワは6月上旬に、コウゾは3月上旬に採穂し、採穂後は発根処理として5ppmのインドール酪酸溶液に基部を24時間浸漬した。発根処理後はそれぞれ異なる5種類の用土で挿し木を行った(写真)。

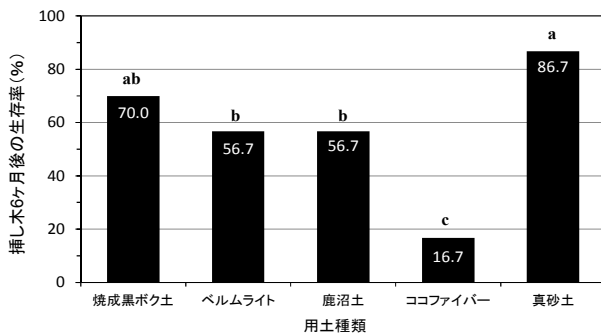
トチノキの採穂部位による発根の違いについて検討した。6月下旬に萌芽及び通常枝から伸長した部分を採穂し、オキシベロン100ppmで発根処理した後、鹿沼土を用土にした挿し床に挿し木した。

それぞれ挿し木作業後は、試験場内の自動灌水設備付きの寒冷紗を張った屋外ガラス室内で適宜ミスト散水を行いながら養苗した。養苗後は挿し木を抜き取り、発根状況を調査した。

#### (2) 結果

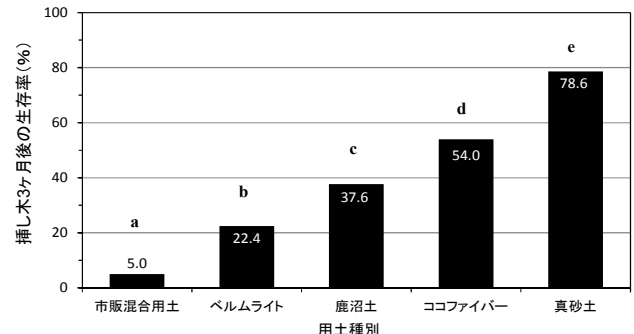
クワは真砂土、焼成黒ボク土での成績が良好だった(図1)。コウゾは真砂土での成績が良好だった(図2)。トチノキは通常枝に比べ、萌芽枝から採穂した場合の成績が良好だった(図3)。

### 3 結果の図表と研究の様子



※異なるアルファベットは各処理間で有意差があることを示す。(カイニ乗検定 P<0.05)

図1 用土別のクワ挿し木生存率の違い



※異なるアルファベットは各処理間で有意差があることを示す。(カイニ乗検定 P<0.05)

図2 用土別のコウゾ挿し木生存率の違い

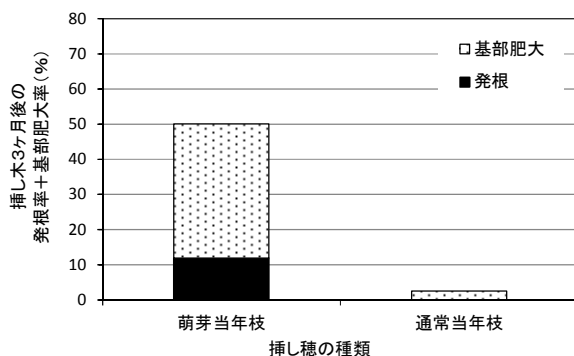


図3 トチノキ挿し穂部位による発根率の違い



写真 クワ用土別挿し木試験の様子